

令和4年度 駒沢看護専門学校評価の結果報告

学校評価委員会

1. アンケートについて

- (1) 目的：当校の設置の社会的使命と教育理念に基づき、質の高い看護師を送り出すために、自己点検・自己評価を行い、健全な学校運営の改善に寄与すること。
- (2) 対象者：教職員17名 回答者15名 (回答率 88%)
- (3) 期間：令和5年1月27日～令和5年2月24日
- (4) 方法：学内メール・書面による手渡して配布。無記名回答。
- (5) 設問：昨年度のアンケート領域、項目と同様。ただし、今年度は入試を実施していないため、入試に関連する領域Ⅴの上から3項目を集計の段階で省いた。

2. 集計結果

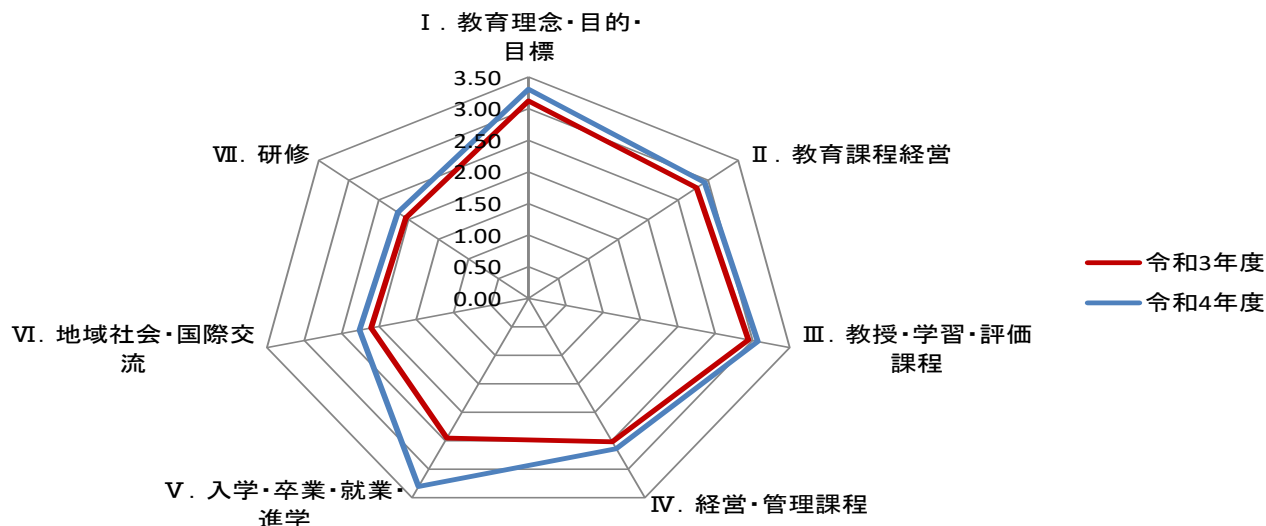
(1) 全7領域毎の平均点と令和3年度との比較

○平均点の算出は、A=4点 B=3点 C=2点 D=1点 無回答は分母から除く。

$$\text{平均点} = (A \times 4 + B \times 3 + C \times 2 + D \times 1) \div \text{回答数}$$

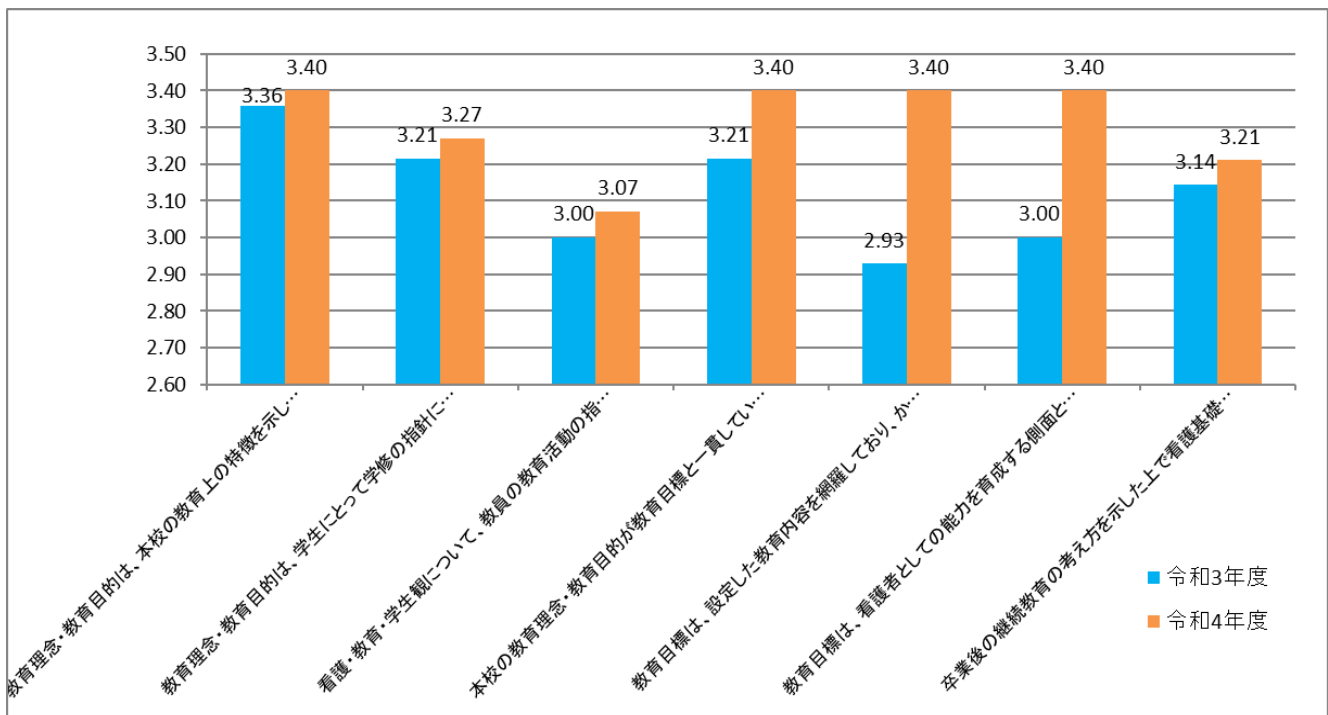
	評価領域	令和3年度平均	令和4年度平均
I	教育理念・目的・目標	3.12	3.31
II	教育課程経営	2.81	2.94
III	教授・学習・評価課程	2.95	3.07
IV	経営・管理課程	2.52	2.64
V	入学・卒業・就業・進学	2.45	3.31
VI	地域社会・国際交流	2.11	2.26
VII	研修	2.05	2.18
全体平均		2.57	2.82

7領域の平均点と令和3年度との比較



(2) 評価項目ごとの平均点と前年度の比較

I 教育理念・教育目的・教育目標

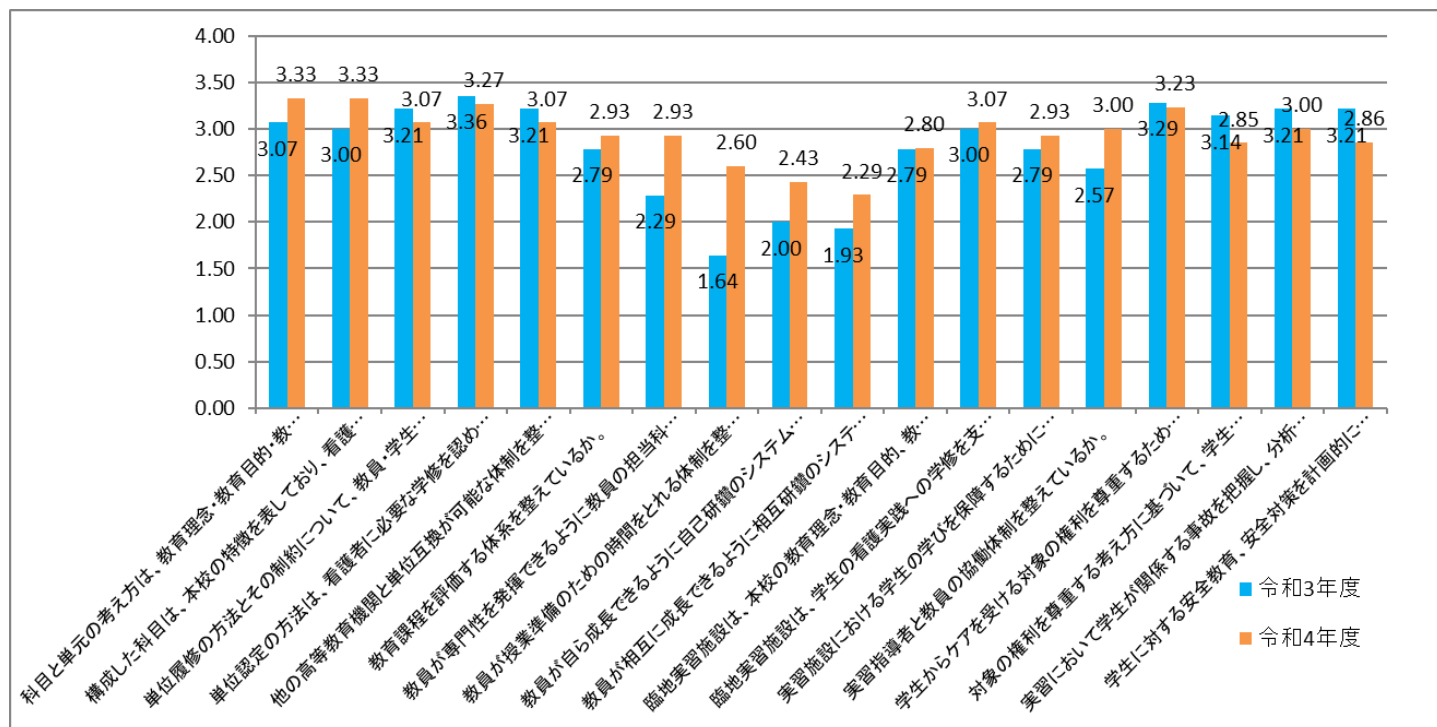


	評価項目	令和3平均点	令和4平均点
1	教育理念・教育目的は、本校の教育上の特徴を示しており、かつ、法との整合性があるか。	3.36	3.40
2	教育理念・教育目的は、学生にとって学修の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっているか。	3.21	3.27
3	看護・教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され、実際に指針となっているか。	3.00	3.07
4	本校の教育理念・教育目的が教育目標と一貫しているか。	3.21	3.40
5	教育目標は、設定した教育内容を網羅しており、かつ、卒業時の学生の到達度が明示されているか。	2.93	3.40
6	教育目標は、看護者としての能力を育成する側面と修学者としての成長を促すための側面から設定されているか。	3.00	3.40
7	卒業後の継続教育の考え方を示した上で看護基礎教育として、教育目標を設定しているか。	3.14	3.21

領域I（教育理念・教育目的・教育目標）の特徴

全7項目で令和4年度の方が高く、特に 5項目と第6項目では、それぞれ0.47、0.47点高くなっている。

II 教育課程経営



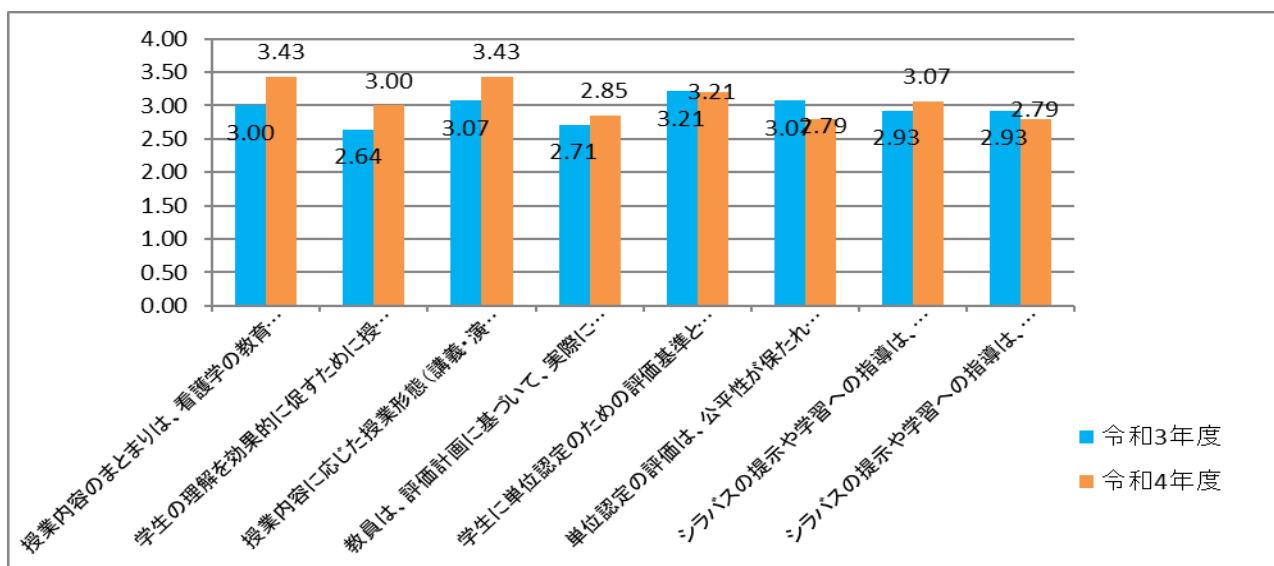
評価項目		令和3平均点	令和4平均点
1	科目と単元の考え方は、教育理念・教育目的・教育目標と整合性があり、明確な根拠をもっているか。	3.07	3.33
2	構成した科目は、本校の特徴を表しており、看護者を養成するのに妥当であるか。	3.00	3.33
3	単位履修の方法とその制約について、教員・学生の双方が解るようになっているか。	3.21	3.07
4	単位認定の方法は、看護者に必要な学修を認めるものとして妥当であるか。	3.36	3.27
5	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか。	3.21	3.07
6	教育課程を評価する体系を整えているか。	2.79	2.93
7	教員が専門性を発揮できるように教員の担当科目と時間数を配分しているか。	2.29	2.93
8	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えているか。	1.64	2.60
9	教員が自ら成長できるように自己研鑽のシステムを整えているか。	2.00	2.43
10	教員が相互に成長できるように相互研鑽のシステムを整えているか。	1.93	2.29
11	臨地実習施設は、本校の教育理念・教育目的、教育目標を理解しているか。	2.79	2.80
12	臨地実習施設は、学生の看護実践への学修を支援する体制を整えているか。	3.00	3.07
13	実習施設における学生の学びを保障するために臨地実習指導者と教員それぞれの役割を明確にしているか。	2.79	2.93
14	実習指導者と教員の協働体制を整えているか。	2.57	3.00
15	学生からケアを受ける対象の権利を尊重するための考え方を明示しているか。	3.29	3.23
16	対象の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っているか。	3.14	2.85
17	実習において学生が関係する事故を把握し、分析しているか。	3.21	3.00
18	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか。	3.21	2.86

領域Ⅱ（教育課程経営）の特徴

全18項目のうち12項目で令和4年度の方が高い。

特に7項目と8項目では、それぞれ0.64、0.96点高くなっている。しかし、16項目と18項目では、それぞれ0.29、0.35点低くなっている。

Ⅲ 教授・学習(講義・演習・実習)・評価規程



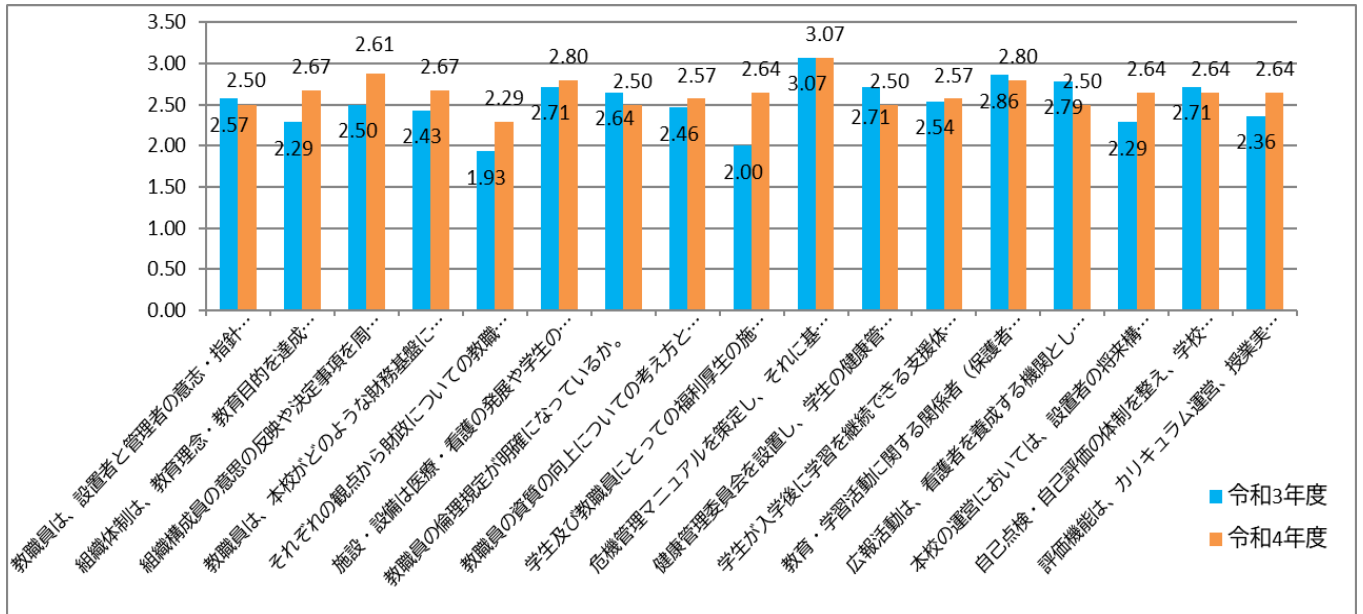
	評価項目	令和3平均点	令和4平均点
1	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性があるか。	3.00	3.43
2	学生の理解を効果的に促すために授業内容の重複や整合性、発展性などが明確になっているか。	2.64	3.00
3	授業内容に応じた授業形態（講義・演習・実験・実習）を選択しているか。	3.07	3.43
4	教員は、評価計画に基づいて、実際に授業を改善しているか。	2.71	2.85
5	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しているか。	3.21	3.21
6	単位認定の評価は、公平性が保たれているか。	3.07	2.79
7	シラバスの提示や学習への指導は、本校全体として一貫性があるか。	2.93	3.07
8	シラバスの提示や学習への指導は、主体的な学習への動機づけと支援になっているか。	2.93	2.79

領域Ⅲ（教授・学習（講義・演習・実習）・評価）の特徴

全8項目のうち5項目で令和4年度の方が高く、1項目で同点である。

第6項目では、0.43点高くなっている。また、第1項と第2項は共に0.36点高くなっている。しかし、16項目と18項目では、それぞれ0.29、0.35点低くなっている。特に第6項目は0.28点低くなっている。

IV 経営・管理課程



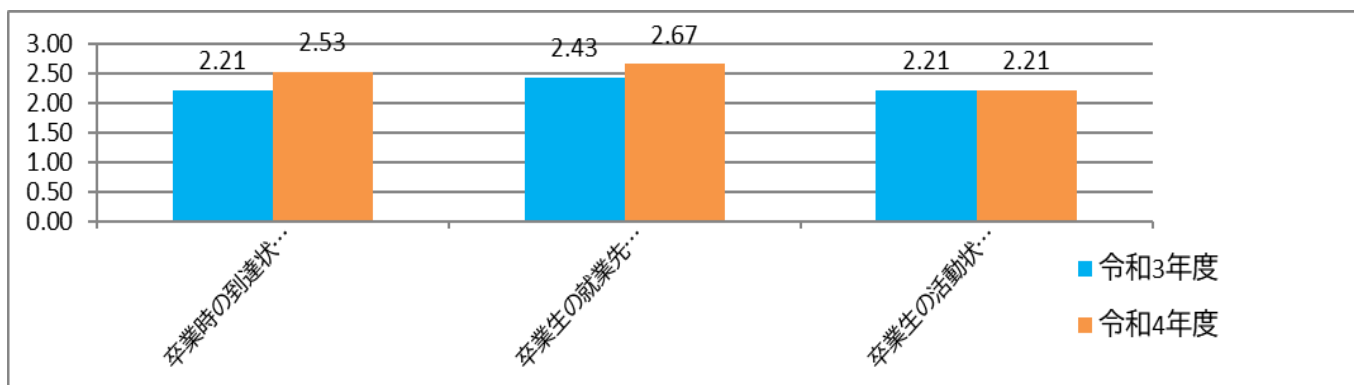
	評価項目	令和3平均点	令和4平均点
1	教職員は、設置者と管理者の意志・指針を理解しているか。	2.57	2.50
2	組織体制は、教育理念・教育目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確になっているか。	2.29	2.67
3	組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるような体制を整えているか。	2.50	2.87
4	教職員は、本校がどのような財務基盤によって成り立っているかを理解しているか。	2.43	2.67
5	それぞれの観点から財政についての教職員の意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか。	1.93	2.29
6	施設・設備は医療・看護の発展や学生の変化に合わせて計画的に整備改善しているか	2.71	2.80
7	教職員の倫理規定が明確になっているか。	2.64	2.50
8	教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・教育目的の達成と整合性をもってしているか。	2.46	2.57
9	学生及び教職員にとっての福利厚生の施設・設備は、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備されているか。	2.00	2.64
10	危機管理マニュアルを策定し、それに基づき防犯・防災（避難）訓練を行うなど、安全確保の体制を整えているか。	3.07	3.07
11	健康管理委員会を設置し、学生の健康管理を支援するための年間計画を立案・実施・評価を行っている。	2.71	2.50
12	学生が入学後に学習を継続できる支援体制を多角的、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。	2.54	2.57
13	教育・学習活動に関する関係者（保護者等）への情報提供を行うことによって、その協力支援を得ているか。	2.86	2.80
14	広報活動は、看護者を養成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか。	2.79	2.50
15	本校の運営においては、設置者の将来構想の下に運営の中期・短期計画、年間計画を立案し、実施・評価を行っているか。	2.29	2.64
16	自己点検・自己評価の体制を整え、学校評価として運用しているか。	2.71	2.64
17	評価機能は、カリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、教育理念、教育目的、教育目標を維持改善するものとなっているか。	2.36	2.64

領域Ⅳ（経営・管理）の特徴

全17項目のうち12項目で令和4年度の方が高くなっている。特に、評価が上がった第2項目は、教育理念や目的の達成するための意思決定のシステムや権限、役割機能の明確さについてであり、第9項目は、学生・教職員の福利厚生施設・設備の整備がなされているかの評価であり、それぞれ前年度より0.64点、0.38点高くなっている。

しかし、第7項目と11項目と14項目では、それぞれ0.29点、0.35点、0.29点低くなっている。

V 入学・卒業・就業・進学

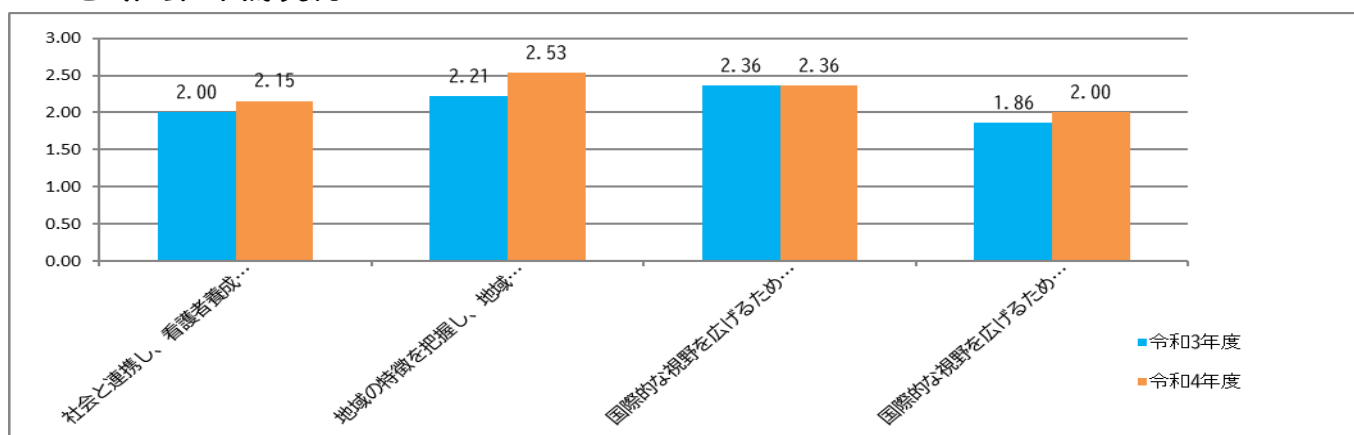


	評価項目	令和3平均点	令和4平均点
4	卒業時の到達状況及び就業・進学状況を分析し、教育理念・教育目的との整合性を検証しているか。	2.21	2.53
5	卒業生の就業先での評価を把握するために就業先との情報交換や調査ができる体制を整えているか。	2.43	2.67
6	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理して、教育理念・教育目的・教育目標、授業の展開に活用しているか。	2.21	2.21

領域Ⅴ（入学・卒業・就業・進学）の特徴

令和5年度入学生募集中止に伴い、令和4年度は入学試験を行わなかったため卒業・就業・進学の3項目の調査となった。結果は全3項目で令和4年度の方が高い。

Ⅵ 地域社会・国際交流

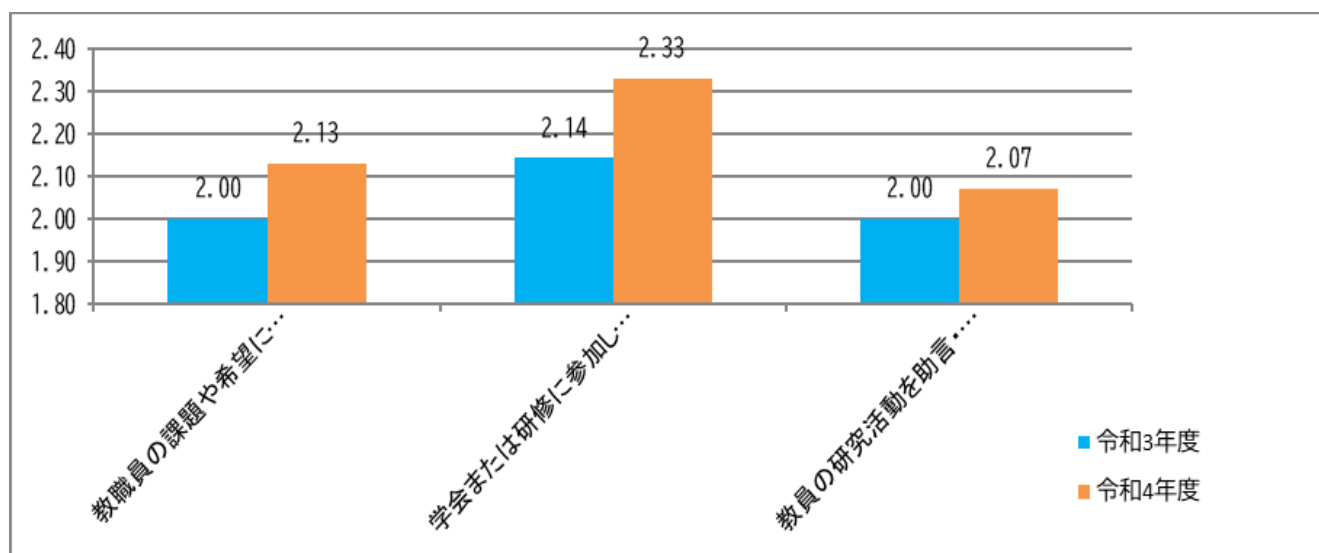


	評価項目	令和3平均点	令和4平均点
1	社会と連携し、看護師養成のための教育活動を通して、地域社会への貢献を組織的に行っているか。	2.00	2.15
2	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本校の学習・教育活動に取り入れているか。	2.21	2.53
3	国際的な視野を広げるための授業科目を設定しているか。	2.36	2.36
4	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境が整っているか。	1.86	2.00

領域VI（地域社会・国際交流）の特徴

全4項目のうち3項目が令和4年度の方が高く、1項目が昨年と同様の数字となった。

VII 研修



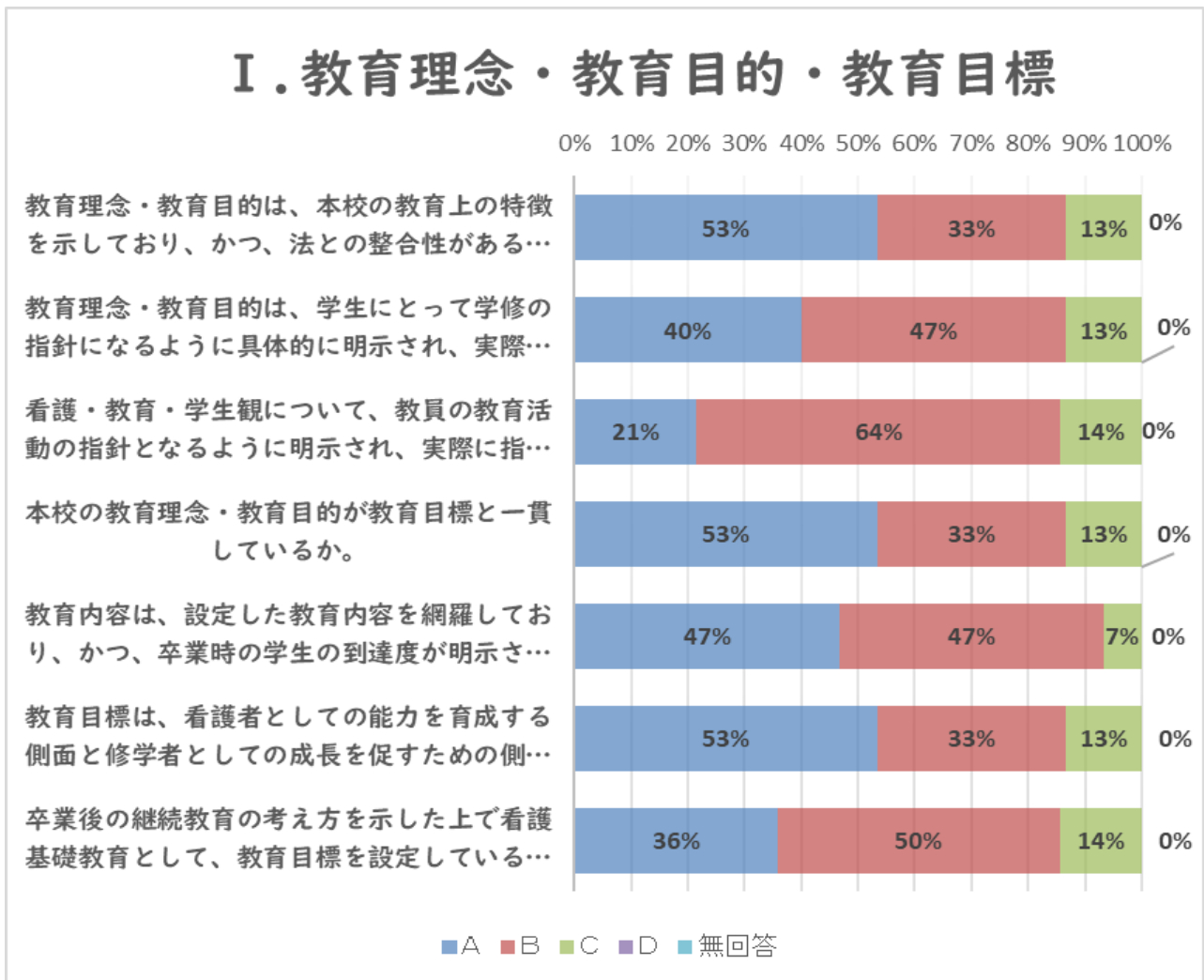
	評価項目	令和3平均点	令和4平均点
1	教職員の課題や希望に沿った職場内研修を行っているか。	2.00	2.13
2	学会または研修に参加した成果を他の教職員に還元するしくみはあるか。	2.14	2.33
3	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか。	2.00	2.07

領域VII（研修）の特徴

全3項目のうち全ての項目で令和4年度の方が高い。

(3) 令和4年度評価における領域別評価

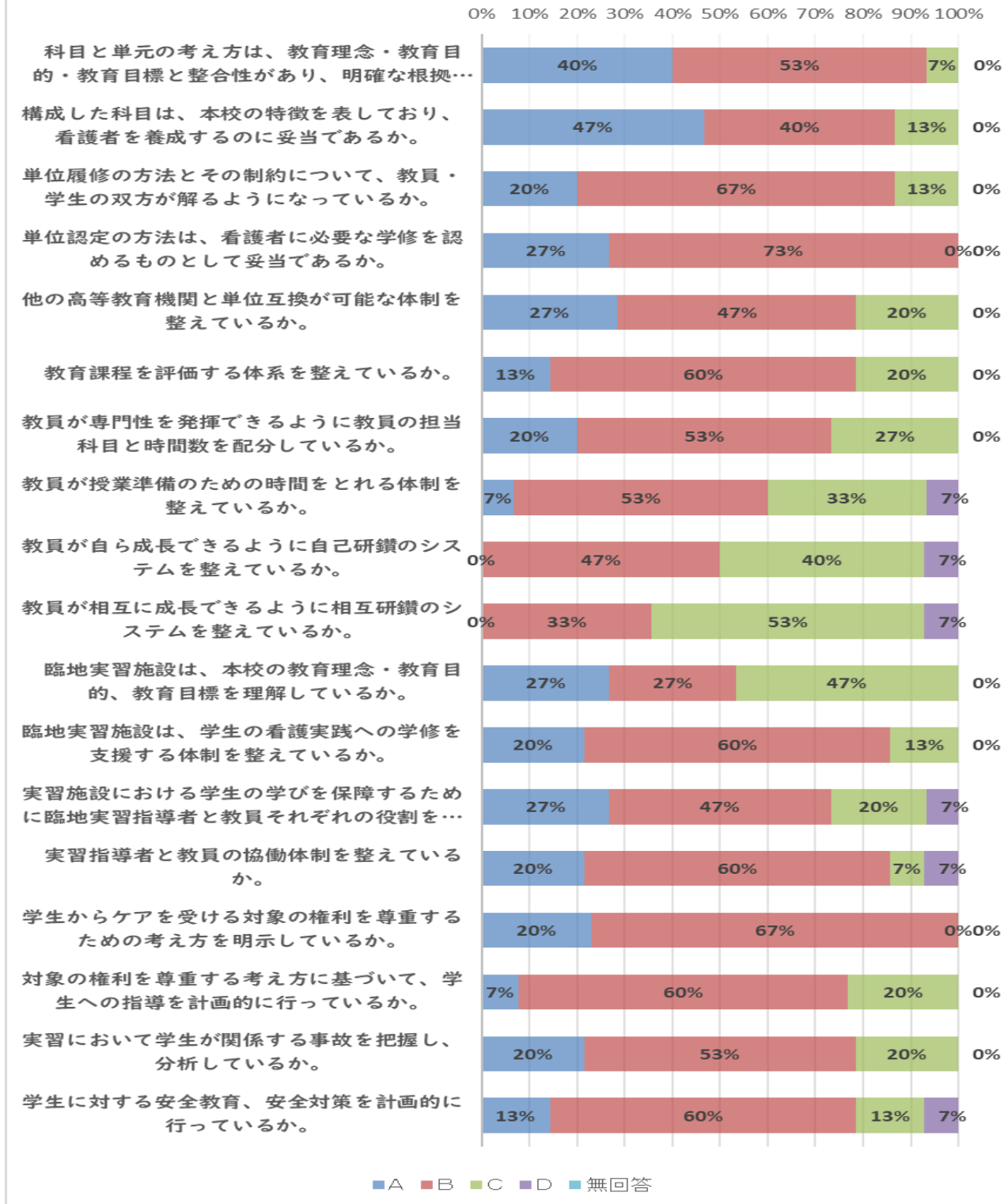
AとBの合計で70%に到達している場合は肯定的評価、到達していない場合は否定的評価と見なしている。



領域 I 教育理念・教育目的・教育目標の領域別評価

全7項目で肯定的評価を得ている。

II. 教育課程経営

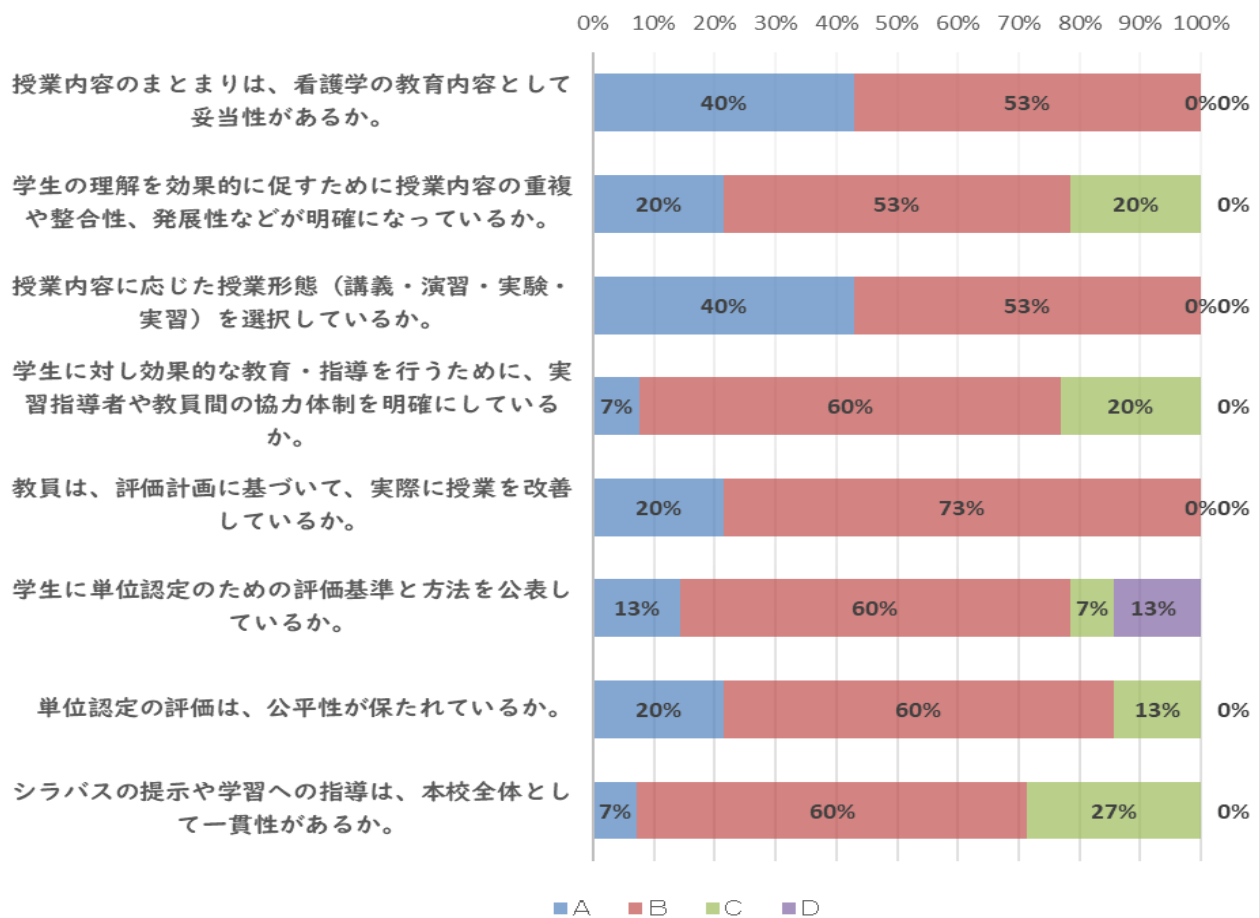


領域II 教育課程経営の領域別評価

全18項目のうち13項目で肯定的評価を得ている。

特に 第4項目は高い肯定的評価100%（昨年度100%）を示している。次に 第2項目、第3項目、第15項目が高く、いずれも87%（昨年度78%、93%、93%）を示している。他方、第9項目、第10項目は低く、それぞれ47%、33%（昨年度14%、21%）を示している。

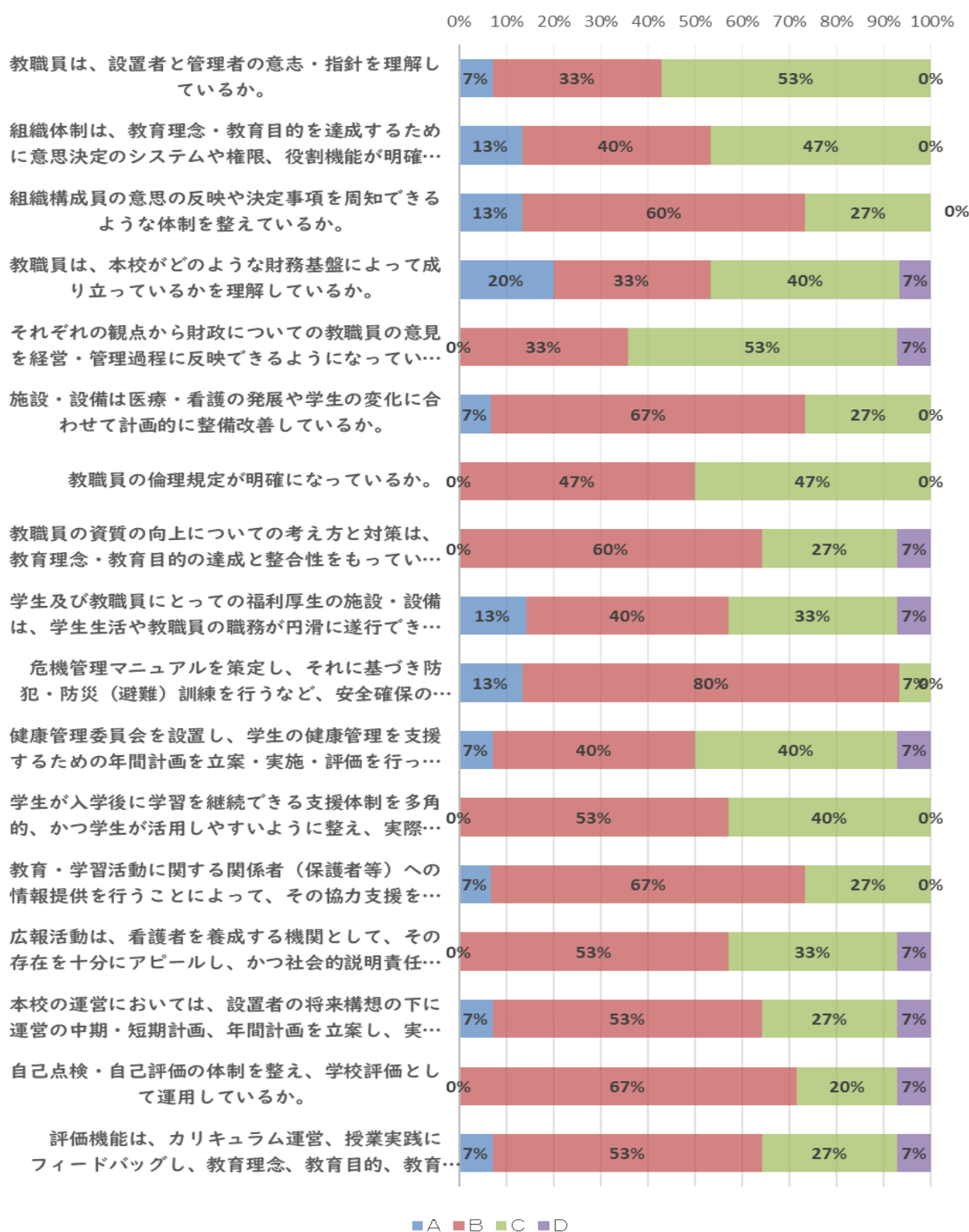
Ⅲ. 教授・学習（講義・演習・実習）・評価課程



領域Ⅲ 教授・学習(講義・演習・実習)評価の領域別評価

全8項目のうち6項目で肯定的評価を得ている。特に第1項目、第3項目、第5項目はいずれも93%（昨年度78%、79%、93%）と高い肯定的評価を示している。最も低いのは第8項目で67%（昨年度78%）である。

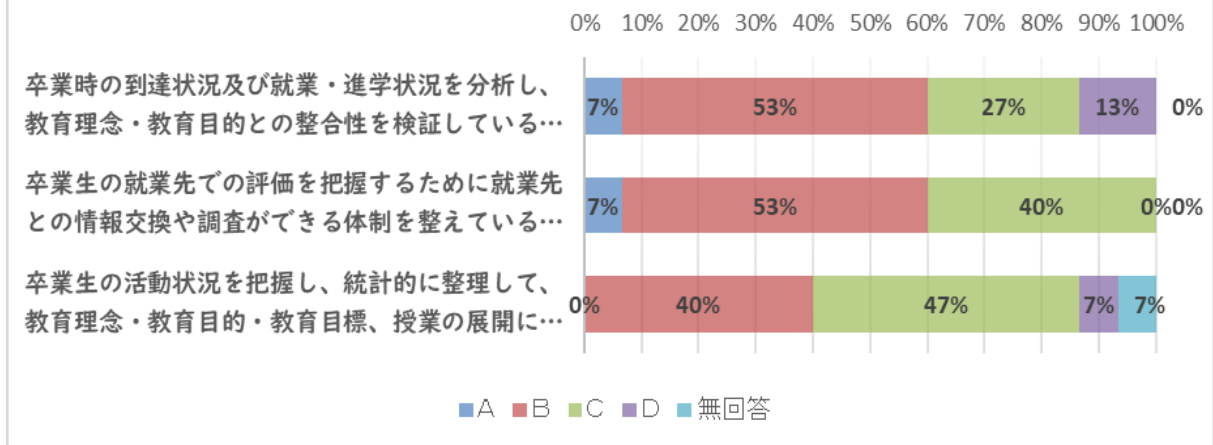
IV. 経営・管理課程



領域IV 経営・管理の領域別評価

全17項目のうち4項目で肯定的評価を得ているに過ぎない。10項目は100%（昨年度72%）と高い肯定的評価を示しているが、最も低いのは第5項目で33%（昨年度14%）である。次いで低いのは第1項目で40%（昨年度57%）である。

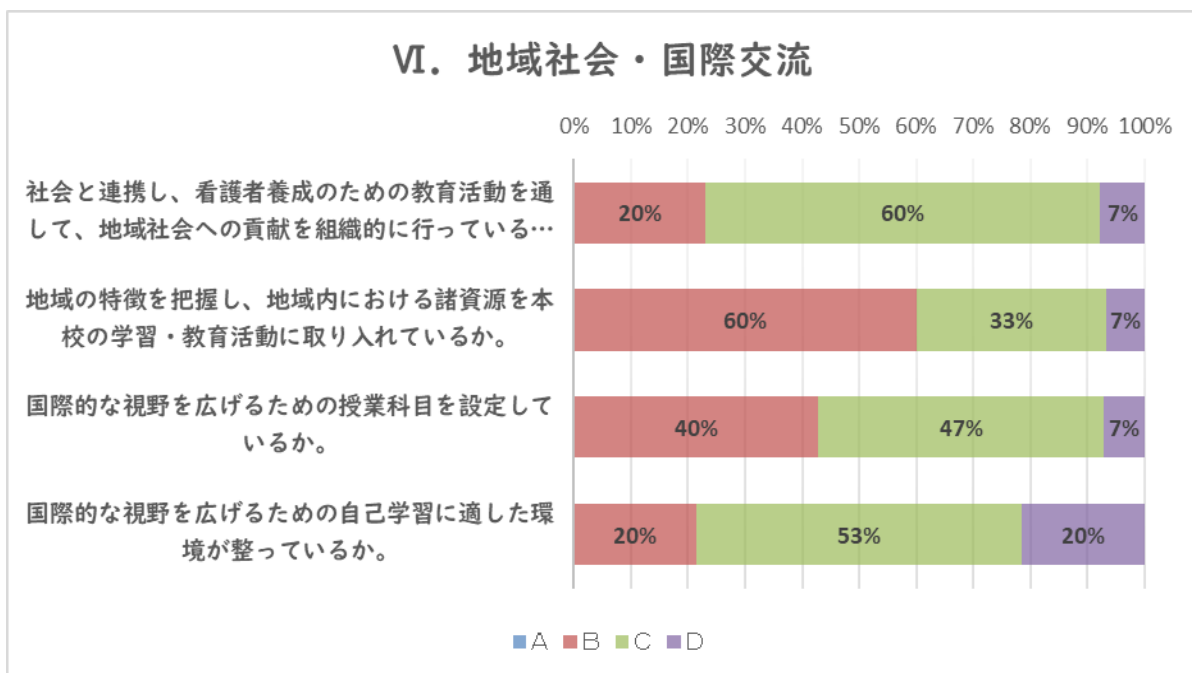
V. 入学・卒業・就業・進学



領域V 入学・卒業・就業・進学の領域別評価

学生募集停止に伴う設問の不適切性があり、全4項目の設問のうち3項目を有効としたが、肯定的評価を得ているものがない。高い評価は 第4項目、第5項目で、それぞれ60%（昨年度36%、50%）で、低い評価は第6項目で40%（昨年度28%）である。

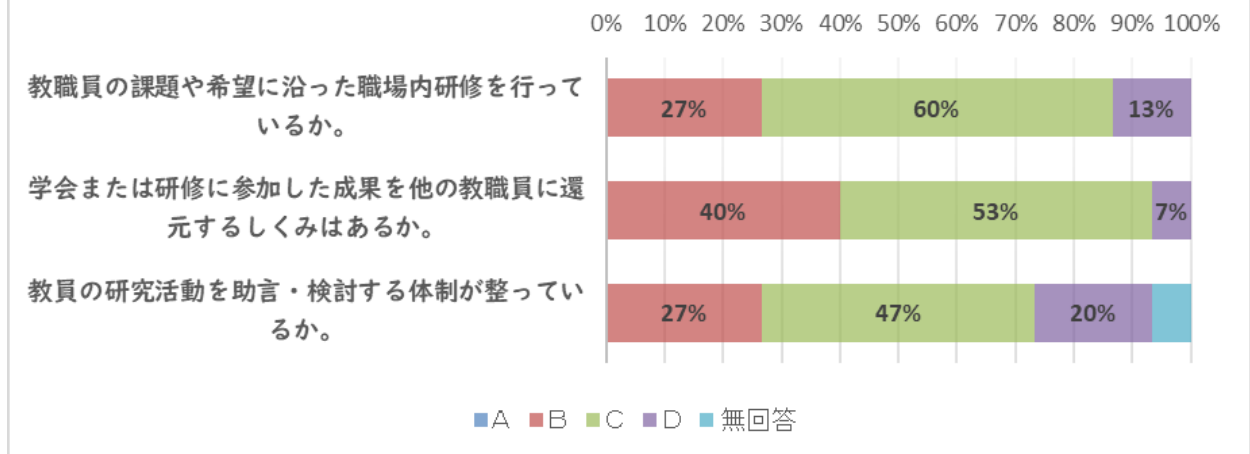
VI. 地域社会・国際交流



領域VI 地域社会・国際交流の領域別評価

全4項目のうち第1項目のみが肯定的評価80%（昨年度28%）を得ている。最も低い評価は第4項目で20%（昨年度7%）である。

Ⅶ. 研究



領域Ⅶ 研修の領域別評価

全3項目のうち肯定的評価を得ているものがない。

高い評価は、第2項目で40%（昨年度36%）である。低い評価は、第1項目と第3項目で、それぞれ27%（昨年度はそれぞれ14%）である。

3. 次年度に向けて

令和4年度の調査結果は、全7評価領域の平均点比較で、前年度調査を上回った。また、領域別評価（A：そう思うと、B：ややそう思う、の合計で70%に到達している場合は肯定評価と見なす）においては、概ね前年度調査を上回っているものの、肯定的評価に達していない領域並びに項目が多い。

次年度の評価に向けての努力は、肯定的評価に達していない領域に向けられるべきである。例えば、Ⅳの領域（経営・管理）における第1項目の40%（昨年度57%）は課題である。

令和5年度募集中止に伴い、教職員、学生に丁寧な説明が必要であったと考える。今後については教職員に設置者と管理者の意志・指針を理解してもらうよう一層の努力が必要である。

また、Ⅴの領域（卒業・就業・進学）における肯定的評価は、令和3年度に比べ高くなってはいるが更なる努力が必要である。Ⅶの領域（研修）も同様である。

また、Ⅲの領域（教授・学習（講義・演習・実習）・評価）は高い肯定的評価を得ているが、努力より高い質の教育への努力が必要である。